

山大病院だより

10²⁰¹³月号

No.213



特集

山口大学医学部附属病院のテレビ番組

「医進!前進!」完結!!



第24回 病院長撮影風景



第1回



第2回

山口大学医学部・附属病院における世界をリードする最先端の研究や医療事情等を、わかりやすく地域に紹介してきたTV番組「医進!前進!」が最終回を迎えます。

平成23年8月に放送した第1回の「肝臓がよみがえる!肝硬変の治療に光明!!～肝再生細胞療法～」(第一内科)から全24回、約2年間にわたり、医学部・附属病院等の研究を山口ケーブルビジョンで放送してきました。

最終回は、田口病院長が教授を務める整形外科の「運動器の健康を守ってQOLを支える整形外科学研究室～脊椎・脊髄外科、骨・軟部腫瘍外科、スポーツ整形外科～」の紹介で、9月12日に全ての撮影を無事に終えることができました。最終回は9月から山口ケーブルビジョンで絶賛放送中です!また、医学部のホームページからも見ることができます。

お見逃しの方も是非、動画でご覧ください!

テーマ	出演者	テーマ	出演者
1 肝臓がよみがえる!肝硬変の治療に光明!! 肝再生細胞療法	坂井田教授	13 産学連携で血管病予防の機能性食品を開発 EPAが血管収縮を防ぐ!!	小林教授他
2 医工連携で驚異の確度93%!! 肝癌再発予測システム	岡教授・ 浜本教授	14 研究で社会貢献!! 大学と社会をつなぐ知的財産センター だれにでも分かる特許のはなし	佐田教授
3 吻合部縫合不全0%をめざして!! 新・吻合術式と補助器具の開発	上野講師	15 時間学研究所 時間生物学研究室 24時間社会に生きる現代人の「体内時計」	明石教授
4 くも膜下出血の危険な続発症を防ぐ 脳血管収縮の解明と治療法	鈴木教授・ 小林教授	16 安全・確実な臨床研究の実施を目指して!! 先端医療を支える臨床試験支援センター	古川教授他
5 死因究明・中毒学・アルコール医学・臨床法医学 法と医療をつなぐ法医学	藤宮教授他	17 薬のエキスパート チームの医療の一員 薬剤師の役割 附属病院の薬を一手に担う薬剤部	古川教授他
6 1分でも早く!空飛ぶ救命センター 運航2年目ドクターへリ	鶴田教授他	18 日本人にあった高血圧食の開発に向けて! 保健学科が進める「新・DASH食」の研究	河村助教授
7 痛みのメカニズム解明と新たな疼痛治療法 慢性痛をやさしく緩和する磁気治療器の開発	石川教授	19 臨床応用をめざした研究を!歯科口腔外科 新たな麻酔剤の共同開発とiPS細胞の研究	上山教授他
8 女性の幸せをめざす産科・婦人科 不妊治療、子宮頸がん予後診断	杉野教授他	20 ヒトの生命活動の根源を探る!! プロテオーム・蛋白機能制御学研究室	中村教授
9 日本全体で難病に立ち向かう体制づくり! 稀少難治性皮膚疾患克服に向けた取り組み	武藤教授	21 さらなる研究力の向上と地域貢献をめざして! 山口大学研究推進機構 研究推進戦略部URA室	三池副学長・ 平井URA部門長・ 堤産学公連携部門長
10 がん予防と早期発見につながる検査法の確立をめざして!! 遺伝子解析による乳がんリスク診断・大腸がん検査	末廣准教授	22 体と薬のメカニズムを分子レベルで解明する分子薬理学研究室 心筋収縮制御の研究と創傷治療薬の開発研究	乾教授
11 口の機能を取り戻し、より高いQOLをめざす!! 口唇口蓋裂と歯科インプラントの臨床研究	上山教授他	23 市民ランナーの心肺停止事故にすばやく対応 マラソン大会の心肺蘇生ボランティアで地域貢献	中村准教授
12 角膜の傷に苦しむ患者を救え!! 難治性角膜上皮障害の点眼薬の開発研究	園田教授他	24 運動器の健康を守りQOLを支える整形外科学研究室 脊椎・脊髄外科、骨・軟部腫瘍外科、スポーツ整形外科	田口教授他



2013 10月
**小林誠教授が
発明協会会長奨励賞を受賞**

このたび、生体機能分子制御学分野の小林誠教授が、平成25年度中国地方発明表彰の発明協会会長奨励賞を受賞しました。
本賞は、公益社団法人発明協会から、各地方において優秀な発明、考案、意匠を完成させた者、またその実施化に尽力した者や指導、奨励、育成に貢献した者の功績を称え表彰されるものです。



小林教授は、血管病(脳梗塞や心筋梗塞など)を突然引き起こし、突然死の主因となる血管異常収縮がSPC(スフィンゴシルフォスフォルリン)により誘発されることを発見し、そのうえで、血圧維持を担う正常収縮には影響を与えずに、SPCによる血管異常収縮のみを特異的に抑える物質としてEPA(エイコサペンタエン酸)を見出しました。さらに、EPAの中でもより血管異常収縮を抑制する特殊な立体構造を有するタイプを主成分とし、また中高年におけるEPAの吸収不全を是正する7つの食品成分を含有する「血管病予防に効果を有する食品組成物」(※1)を提供したことが評価され、今回の受賞につながりました。

なお、本研究は、中小企業庁からも表彰を受け、NEDO(独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)の大型助成対象にも認定されました。
小林教授は「本受賞は、血管病による突然死をなくしたいという情熱と同じ志をもった教室メンバー全員の血の滲むような努力の積み重ねの結果です。病気になる「後」でないと服用できない医薬品と異なり、食品であれば病気になる「前」から摂取できます。血管異常収縮の特効薬成分を含む食品により、血管病の真の予防が可能となることを期待しています。」と、受賞の喜びと今後の展開への期待を語りました。

また本発明は、8年越しで特許も取得。特許取得と受賞に対し、佐田知的財産センター長は「ようやく特許が認められました。大学の研究は、特許を取得することで事業化につながり、すばやい社会還元が可能になります。また他の類似商品が出ないので、安全保障や品質安定など様々な効能もあります。他の先生方にも研究成果の特許取得を目指していただきたいです。」と語られ、松崎産学連携コーディネーターは「大学発知財の実用化と大学研究への再資源化にもなっているモデル的な特許です。特許の取得や今回の受賞が大学内の活性化につながっていくことを期待しています。」と喜びを語られました。

なお、授賞式(10月23日開催予定)では、丸本学長にも実施功績賞が表彰されます。
※1オリエンタルバイオ社と共同開発した「ロファイネ・エパゴールド」

「医進!前進!」も、ぜひご覧ください。
小林教授の研究・・・第13回 産学連携で血管病予防の機能性食品を開発
特許について・・・第14回 研究で社会貢献!!大学と社会をつなぐ知的財産センター

Human
ひと
山口大学医学部附属病院に
まつわる方々をご紹介します。

泌尿器科の白石講師の
国際泌尿器科学会講演レポート



約10ヶ月前に、まったく面識のないアメリカとカナダのプログラム委員会から依頼があった時には、私で務まるのかという不安はありましたが、日頃行っている技術や治療成績を正直に話し、なんとか無事に30分の講演と15分の質疑応答を終えることができました。

いまだ難治の無精子症の治療成績を上げるために、今後も日々研究を続け、腕を磨いていきたいと思えます。世界の山口大学を目指すべく、時々来院される海外からの患者さんのために、受付から会計までスムーズに対応できるようにシステム構築も必要であると感じていま

泌尿器科の白石晃司です。主に男性不妊症の治療を担当しています。
全世界の泌尿器科医が集結する第33回国際泌尿器科学会が9月8日から12日にカナダのバンクーバーで開催されました。過去にも参加したことはありませんが、名誉なことに今回は教育セッションの演者としての招聘があり、男性不妊症に関するマイクロサージェリー(実体顕微鏡を使用して行う微細な手術)についての講演をしてきました。

いろいろの
ナースのお仕事
がん性疼痛看護認定看護師

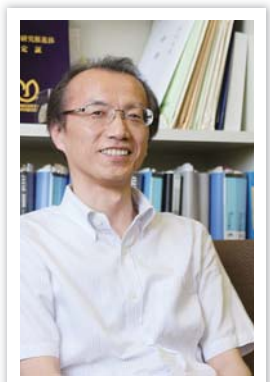
がん性疼痛看護認定看護師の宮内貴子です。
がん性疼痛看護認定看護師とは、「痛み」の総合的な判断をし、一人一人に合わせたケアやお薬の適切な使用をすすめて

痛みを緩和するための教育を受けた看護師で、患者さんの痛みを緩和し、抗がん剤や放射線などの治療が円滑に進むように援助する仕事を行います。
私は、症状緩和外来(ペインクリニック)でお薬の指導や日常生活での工夫などについて指導を行っています。
当院では、心と体のサポートチームが患者さんの痛みや不安、倦怠感などの苦痛を和らげ、在宅療養や転院に向けた支援を行っています。

チームでは、医師や看護師、薬剤師、管理栄養士、作業・理学療法士、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカーなどの専門家が協力し援助を行っています。
私はチームの一員として、痛みの緩和だけでなく、患者さんとそのご家族の希望に沿った療養生活が送れるように支援することを心掛けています。



問合せ先
ペインクリニック
0836-22-2523



中井彰教授

2013 7月
FEBS Journal Top-Cited Paper Awardを受賞

医学系研究科医化学分野の藤本充章講師と中井彰教授がFEBS Journal(2010年10月)に発表した総説に対してFEBS Journal Top-Cited Paper Awardが授与されました。この賞は、欧州科学雑誌FEBS Journalに発表された論文の中から、発表から2年間の引用数の極めて高い論文に編集局から授与されるものです。
本総説は、筆者らが大きく貢献してきたHSF遺伝子ファミリーの概要、およびそれらのプロテオスタシス調節と老化と関連する神経変性疾患等における役割について、研究の歴史をふまえて解説したものです。世界的にも注目度の高さが伺えます。一連の研究は、山口大学研究推進体「ストレス応答と関連した難治性疾患の克服のための戦略」の一環として進められたものです。



藤本充章講師

Report
様々な出来事をご紹介します。
イベント・レポート

2013 8月
中学生職場体験レポート

8月22日(木)に、西岐波中学校の4名の生徒(男子1名、女子3名)の職場体験を受け入れました。男子生徒は整形外科医の体験で、今釜助教に病院や医師の業務説明を受けた後、外来や検査の現場に立ち会い、体験実習として医師指導の下ギブスの装着も行いました。女子生徒は白衣を身にまとい看護師を体験。清拭や足浴の介助援助や、患者さんにもご協力いただき、脈診や聴診の体験を行いました。
どの生徒も元気に真剣に業務体験を行い、患者さんとも病院スタッフも笑顔になれる1日でした。本院で一緒に働ける日を楽しみにしています!



脈診をしながらの血圧測定



医師の指導を受けてギブスの装着体験

2013 8月
トランスレーショナルリサーチ報告会

医療におけるトランスレーショナルリサーチ(TRL)とは、新しい医療を開発し、臨床の場で試用してその有効性と安全性を確認し、日常医療へ応用していくまでの一連の研究過程をさします。
本院のTRL助成金は、世界に誇れる先進医療の開発を促進することを目的としており、平成23年度から実施しています。
このたび、平成24年度に採択されたTRLの成果報告会を実施し、以下の7名の研究代表者がそれぞれの研究成果を発表しました。予定時間を大幅に超過する活況ぶりで、今後の山口大学医学部の更なる発展が期待できる成果報告会となりました。



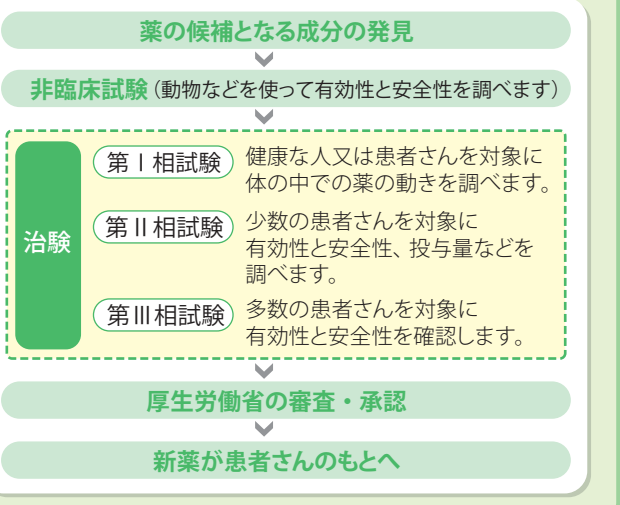
藤井正美准教授(手術部)の報告

- 末廣寛准教授(臨床検査・腫瘍学分野)
- 藤井正美准教授(手術部)
- 上山吉哉教授(歯科口腔外科学分野)
- 村上明弘講師(産科婦人科)
- 大和田祐二教授(器官解剖学分野)
- 上野富雄講師(第二外科)
- 原浩貴講師(耳鼻咽喉科)

Information
治験ってなあに?

『治験』とは、薬の候補を健康な方や患者さんに実際に使用していただき、その過程で有効性(効き目)と安全性(副作用)について確認し、医薬品として厚生労働省から認めてもらうために行う臨床試験です。
治験は、国が法律として定めた基準(GCP:医薬品の臨床試験の実施の基準)を守って行うように義務づけられています。通常、患者さんの安全に十分に配慮して、右に示すような段階で進められます。

このように、治験は試験を目的としているため、通常の治療と異なり研究的な側面があります。現在、使用されているお薬はすべてこの『治験』を行い、厚生労働省からの許可を得た後に患者さんに使用していただいております。



ジョーダン病のはなし

冗談ではありません本当の話です。病気の名前ですが、英記すると“Jordans' Anomaly”となります。

心臓や血管に脂肪が大量に蓄積する病気として、1953年に報告されているかなり珍しい病気です。2008年に大阪大学循環器内科の平野賢一先生が心臓移植症例の患者さんから発見した、新しい疾患概念である“中性脂肪蓄積心筋血管症(TGCV)”が、“Jordans' Anomaly”と同じ病気ではないとも言われています。このTGCVの原因は、中性脂肪を分解するために必要な酵素であるATGL、もしくはその遺伝子に異常があることも先生は見つけておられます。この病気は、まだ難病にも指定されていないくらい稀な病気で、日本国内での生存例もたった4名しか確認されていません。さらにTGCVの治療には、MCTと言われる中鎖脂肪酸が有用であることが分かっています。

稀な病気ということもあり、平野先生の患者さんにも、私の患者さんにもジョーダン病に悩まされている方はいなかったのですが、第二内科の先輩である尾崎正治先生(尾崎循環器内科院長)が、1989年に“Two Familial Cases of Jordans' Anomaly”として英文で症例報告されていたことを知り大変に驚きました。それ程遠くもない昔に、なんと自分のすぐ近くに患者さんがいたこととなります。ジョーダン病は遺伝が絡んでいる疾患なので、好発家系や地域が見つかる、多くの患者さんがそのまわりで悩まれている可能性があるのです。そして、今は新たに患者さんが見つければ、MCTを使って治療できるかもしれないのです。尾崎先生には直ぐに連絡を取り、さらに現在周防大島町公営企業局長の石原得博先生にもご尽力頂き、当時のカルテやプレパラートを探したのですが、20年以上も前のことであり、当時の情報は何も見つかりませんでした。

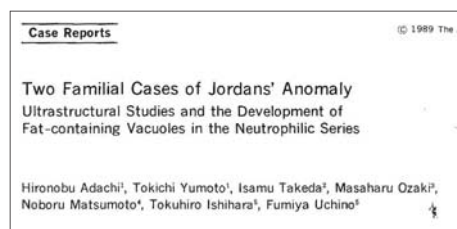
そしてこのジョーダン病も再び歴史と地域のペールに包まれてしまいました。いつの日か、このジョーダン病の診断と治療方法が解明され、病気を取り巻く先人達の様々な苦労も“冗談病”であったと笑える日が来て欲しいと願っております。

【地域医療推進学講座 中村浩士】



青森県下北半島で行った特定集団検診(平野班)の様子

前列右から二番目が平野賢一先生です(著者は右端)。後ろの建物は検診に使用した公民館です。TGCVの発症には地域性が高いことが知られており、食生活を含む生活環境を含めて定期的に調査をすることで、病気の発見と治療法の開発に役立っています。



尾崎先生が出雲市の病院に出向時代に書かれた論文(Acta PatholJpn 1989)

先生は当時の患者さんの担当医だったそうです。変わった病名だったので今でもよく覚えているそうです。

お知らせ(TV放送)

「山口から世界へ！」
世界をリードする最先端の研究を
わかりやすく地域へ紹介!!

医進！前進！
～山口大学医学部研究室探訪～
完結！

放送日 毎日 23:15～23:30
※放送時間は、変更される場合があります。
※9月30日から放送日時が変更になりました。
※放送は10月31日までです。

放送局 山口ケーブルビジョン(ケーブルTV)
番組は、医学部HPからもご覧いただけます!

山口大学医学部 広報

すぐ使える

豆知識
コーナー

ハーブを使ったまめまめ情報

< 赤ちゃんに使えるママ助っ人ハーブの巻 >

● 使用ハーブ… “ジャーマンカモミール”

○おむつかぶれ… ハーブティーをガーゼに
湿らせてふいてあげてください。

○腹痛・不快感… げっぷを上手に出せないと
お腹が張り、痛みや不快感につながります。
※お母さんがティーを飲み、母乳からあげて
ください

○夜泣き… 沐浴剤としてカモミールティーを混ぜて
ください。

★カモミールは、ホルモン調整作用があるため、
お母さんにもおすすめ★

おちまめ知識

カモミールは世界で最も親しまれているハーブのひとつです。穏やかに作用するので、お子さんにもおすすめです。

※キク科のアレルギーのある人には合わない場合もあります



編集後記

医進!前進!は、山大的最先端の研究が、健康に不安がある方に少しでも希望の光を与えることができたら、という思いで制作してきた番組です。放送前には、私たちも視聴するのですが、学内のことながら、こんな研究が進んでいるんだ!こんなすごい先生がいるんだ!という新しい発見が、毎回たくさんありました。皆さんにも、是非ご覧いただけたら嬉しいです。

編集担当(総務課総務係)：K.T.、C.I)

■発行者情報

企画発行：山大病院だより編集委員会
事務担当：山口大学医学部総務課総務係
TEL：0836-22-2007
E-MAIL：me202@yamaguchi-u.ac.jp